

# 第1回 まちづくりミーティング

日時：令和元年7月11日（木）14：00～15：00

場所：中丹勤労者福祉会館 第2会議室

団体：京都生活協同組合 両丹ブロック

主な話し合いの内容

**団体：～京都生活協同組合両丹ブロックの昨年度活動状況及び今年度重点課題、併せて通常総代会議案書の説明～**

市長：昨年は8月に子育て支援や地産地消についてまちづくりミーティングをお世話になった。今回は生協の理念と重なり合うSDGsをテーマにお世話になる。

SDGsでは、行政だけではなくてNPOや民間も一緒になって取り組んで持続可能な社会にしましょうというもの。生協もフェアトレードを意識されているように、行政以外でもそれぞれの立場で取り組まれている。

福知山市では、子どもたちに沖縄・長崎・広島へ行ってもらい過去の戦争を学習してもらう機会を作ってきた。一方で自分が生きているこの瞬間に世界で何が起きているか勉強してもらうことで、今日、明日を生きられない、教育が受けられない子どもたちがいる、ということ学ぶセミナーを今年度から実施する。

SDGsには、これまで行政がやってきたこともたくさん含まれている。どのようにまとめ、集約するか、やはり3つのセクターが一緒になってやっていく事が大事だと思っている。

昨年からGAP認証取得の支援事業に取り組んでいる。安心・安全だけでなく、自分のマーケットが広がるというメリットもあるので支援していきたい。

**団体：生協のエリア会での学習の中で、福知山に住んでいても知らないことがたくさんあることに気づいた。実はSDGsは普段の生活と直結していて、レジ袋をもらわないようにすることやゴミの分別などが積み重なってできる。**

**また、生協ではエシカルを「誰かの笑顔につながるお買い物」というキャッチフレーズでやっている。**

市長：エシカルな製品を作るという部分では、福知山市には丹波漆、紙すきや藍染など、すべて原材料から自分のところでやっているところがある。エシカルな製品を作っていることを知ってもらえるよう行政としては何か考えていかないといけないと思っており、例えばエシカルツアーによって、福知山市だけでなく都市部の方にも漆などを見に来てもらうことが必要だと感じている。

**団体：藍の展示会で、中には扇子を分けて欲しいと言われる方がいた。でも販売はしていないので、観光のお礼品で売ってもらえるようになれば需要があつていいと思う。**

市長：こだわりのある製品には需要があると思う。実は昨年、由良川扇子というのを作っていただいた。これは、丹波漆・手すきの和紙・藍染を用いたもので、作り上げるのにすごく時間がかかった。ほかにも、藍染の名刺は注文から半年くらい後にできあがった。東京などで名刺交換すると興味を持ってもらえる方もいる。また、「エエもん発掘事業」というのをやっている。地域の特色・持続性のある製品を選びましょうというもので、昨年は4品選んでいただいたが、選ぶのが目的でなく、農業系のコンサルなども入って、販路開拓や付加価値をどう付けていくかということを考えていく。

団体：生協のエリア会では防災の学習をすることもあり、学んでいく中で地域のことを知る機会にもなった。

市長：防災の問題は、ハードとソフトの両面がある。ハードにあたる河川整備は国府市でしっかり進めていく一方で、ソフト面として避難していただくための施策として、子どもたちへの防災教育がある。そして、避難のあり方検討会も進めており、そこではいつどうに逃げるかや49箇所の広域避難所が機能しているかなどについて検討していく。学んでいただいてご意見いただければありがたい。

団体：私は3年前に福知山に引っ越してきたが、子育てしやすいまちになってほしい。

市長：一昨年、子どもの貧困対策について考え検討していく中で、子どもに関わることがいくつもの部署に亘っていることが分かった。問題は分断されていると子どもの課題が見えにくくなるということである。昨年、子育ての総合相談窓口をつくり専門職を増やしたことで、子育て家庭を支援できるようになり、家庭訪問の件数も増えている。

今年9月の診療分から住民税非課税世帯の0歳から中学3年生までの子どもの入院・入院外の医療費の自己負担分を無料にする施策をとっていく。また、LINEで子育て相談を今秋くらいからスタートさせる予定で、窓口に来るのも困難、電話もしづらいといった方にも気軽に相談していただけるようにする。

